

県民の期待をになって 開学した国立富山医科薬科大学

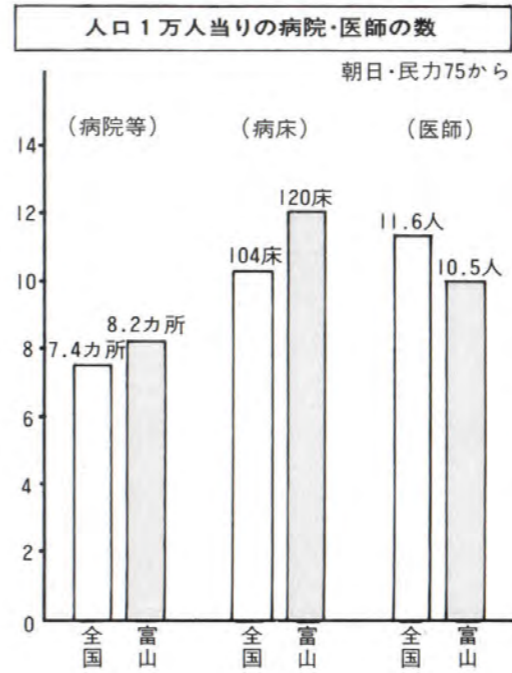
ユニークな 医薬総合教育を

十月一日、国立富山医科薬科大学が開学しました。昭和四三年、「富山大学に医学部を」という構想が持たれて以来足かけ八年。医科薬科大学の開学で、医師不足に悩む県内医療を打開するため、まず「無医大県」から脱脚しようという県民の夢がここに実現したわけですから。

開学と同時に、事務局が県立総合衛生学院内に置かれ、これからの学生募集や五四年度完成をめざす学園建設の事務などがこで行われます。また明年四月開始の授業は、暫定的に、県立富山中部高校旧校舎を使って行われます。

医学と薬学の一体化という全国でもユニークな構想をもって登場した富山医科薬科大が、今後の医療体制に果たす役割が期待されます。

●医師不足が悩みの富山県



病院と病床の数は
バランスがとれているが…

病院・一般診療所八七二、病院病床数一、二、七八七、医師数一、一〇一人……これが本県の医療施設と医師の現況です。

この現況は、全国的にみてどういう地位にあるでしょうか。人口一万人当りの病院や医師の数でみてみましょう。

まず病院(診療所含む)数は八、二。全国平均の七・四を上回っています。

病床数でも本県は、一、二〇床と全国平均の一〇四床を上回っています。高知、徳島、石川、岡山、香川のトップ集団との格差がみられるものの、病院数と病床数の間にアンバランスがみられる県が多い中で、本県の病院数は全国第三位、病床数で第一七位と、中位ながら、一応バランスのとれた現況にあるといえます。

しかし、医師数についてみると、一〇・五人と、全国平均の

●ユニークな構想で出発

医学と薬学の一体化めざす

富山医科薬科大学は、医学と薬学を一体化し、東西両医学を融合した新しい医学のあり方をめざすユニークなもので、次のような組織をもって構成されます。

- ① 医学部
- ② 薬学部
- ③ 和漢薬研究所
- ④ 附属病院
- ⑤ 医療原形病態研究センター
- ⑥ 共同利用機器センター
- ⑦ 大学院医学研究科
- ⑧ 大学院薬学研究科
- ⑨ 医療技術短期大学部

進課程を設けず一貫教育を実施するほか、「医薬総合教育」の立場から、共通基礎科目などは医薬合同講義を中心に行うことなどが挙げられます。

医学部の教官は、教授三〇人、助教授・講師三〇人および助手七六人の計一三六人。

薬学部は、教授一四人、助教授一五人、助手一五人の計四四人の陣容です。

将来に設置が予定されている医療技術短期大学部は、看護、衛生技術、リハビリテーションの三科を設け、看護婦や療法士などの医療技術者を養成するものです。

医科薬科大の教育は……

大学の定員は開学時、医学部一〇〇人、薬学部一〇五人で出発しますが、将来は両学部とも二二〇人に増員されます。

教育課程の特徴としては、両学部とも独立の教養課程や医学

大学院には医学研究科と薬学研究科が置かれ、それぞれ六〇人、三九人を定員とします。これに対し、医学・薬学関係教授、和漢薬研究所、医療原形病態研究センターの教授が総合協力して研究者の養成にあたります。

●開学に至るまで

医師不足解消をめざし
こうした医師不足の現状に対し、県は昭和四三年、富山大学に医学部を設置するための「医学部問題研究会」を発足させ、

国に働きかけました。
次いで四七年には、「国立富山大学医学部誘致期成同盟会」を結成。四八年、受け入れのための用地を富山市杉谷地区に確保し、誘致活動を強化しました。

人口当り幾人の医師が適正または必要であるか明確ではありませんが、国際統計要覧から昭和四五年の主要諸国医師一人当りの人口をみてみましょう。

京都・石川・鳥取・徳島の一人以上の府県との差が大きく、全国の第三二位に甘んじています。

独五六一、ソ連四二一人に対し、わが国は八九八人と、主要六カ国の中で最も医師が少ないことがわかります。その中で、本県はさらに下位にあり、医師不足のそしりは否めないでしょう。

「医科薬科大」の構想へ

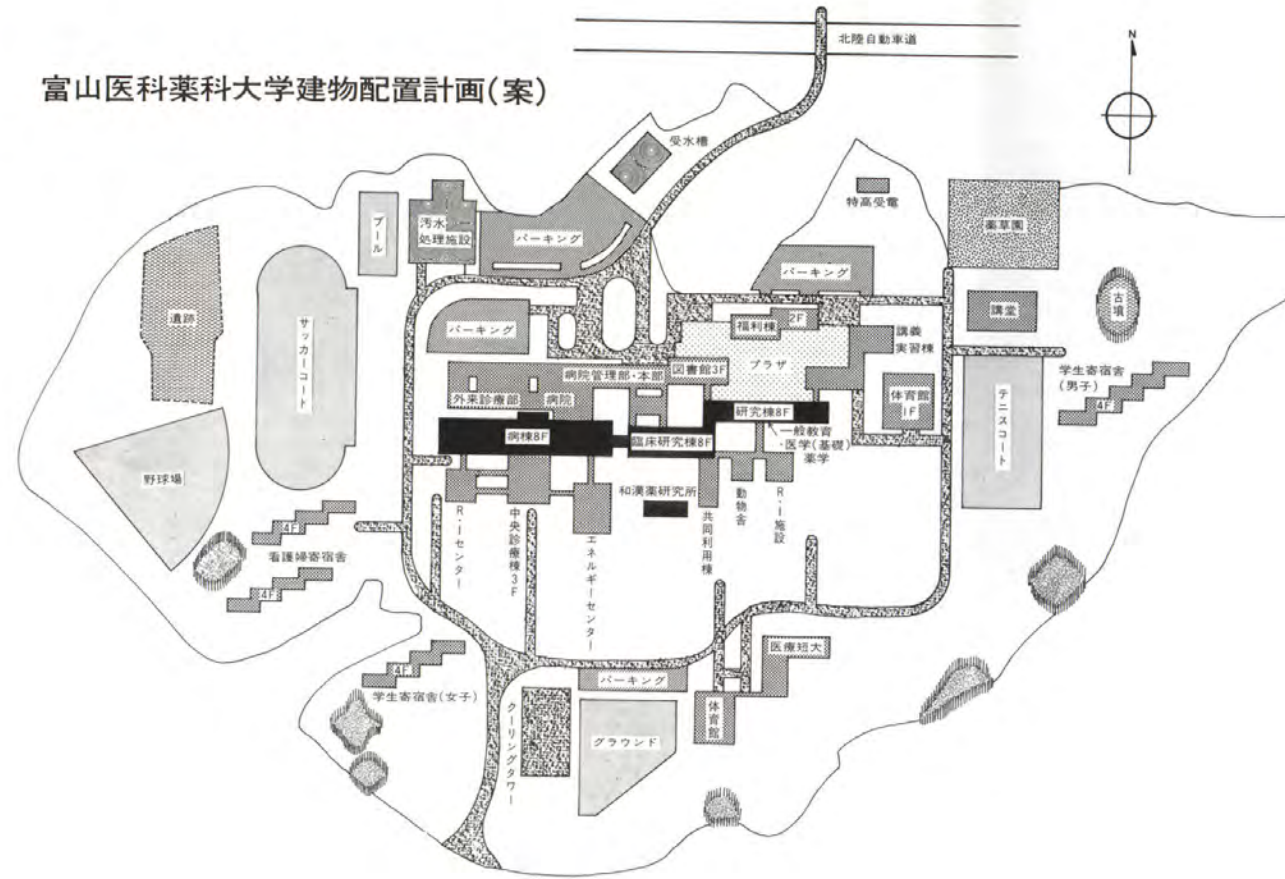
四九年に入り、国の動きに即応して、富大医学部誘致から医学単科大学の設置に構想を切り換えました。その後、政府の構想として、富山大学薬学部を分離し、富山医科薬科大学の創設が示唆されたため、県でも、従来の誘致期成同盟会を「国立富山医科薬科大学誘致期成同盟会」と改称するとともに、新たに「財団法人国立富山医科薬科大学協力会」を発足させ、誘致実現に努めてきました。

こうした本県の努力が実り、ことし一月、本年度政府予算に医科薬科大学創設費が計上されました。さらに四月に入り、国立学校設置法の一部が改正施行されると同時に、富山医科薬科大学の構想が発表され、十月一日開学が決定されるに至ったわけです。

去る十月一日、開学と同時に平松博学長、小林収・山崎高穂両副学長、教授および事務局長以下の発令が行われ、大学の陣容が整いました。



富山医科薬科大学建物配置計画(案)



医科薬科大の研究体制は……

研究体制としては、現在富山大学に併設されている和漢薬研究所を近い将来本大学に移管するほか、医療原性病態研究センター、共同利用機器センター、動物実験センター、薬草園が設置されます。

和漢薬研究所は現在五部門ですが、病態薬理・治療研究部門が新設され、付属病院と協力しながら、薬効作用機序と臨床治療とを関連させた研究を進めます。

医療原性病態研究センターは、開発された新薬の適正量を決定し、投薬の過不足による障害を防止するため、各種医療原性疾患の発生などについて総合的に研究するものです。

●五四年度完成を目ざす

大学の建設予定地は、富山市杉谷と婦中町友坂地区の丘陵地帯であり、すでに三七万平方メートルの敷地が確保されています。施設建設には、一部本年度着

共同利用機器センターは、講座単位に設けにくいR1(ラジオ・アイソトープ)、電子顕微鏡超遠心機、質量分析計などの共同機器や測定装置等を備え、研究や診療のために利用するものです。

学生に対する臨床教育と卒後研修の機関として、医学部には属させない大学の付属病院を置きます。臨床講座または研究部門に対応して診療科を置き、総合病院として病態の総合的診断治療を行います。臨床検査部、放射線部、手術部、材料部を《中央診療施設》とするほか、《特殊診療施設》として和漢薬療法部、疼痛診療部を置くという特徴的な構成になっています。五四年四月開院の予定です。

工分のほか、明年四月から着手します。学園の施設を大別すると、校舎、大学管理棟、付属病院、講堂、図書館その他学生寮、看護

婦宿舍、体育館等の付属施設に
なりす。このうち、講義実施
棟(四階建九千平方メートル)、体育館
(千五百平方メートル)、福利棟(二階

建二千平方メートル)が五一年度中に
完成します。

五二年度以降は、医業一般研
究棟(八階建)、臨床研究棟(八

階建)、和漢薬研究所(四階建)、
医療短大、図書館(三階建)、病
院管理棟・外来棟(三階建)、病

棟(八階建)などのほか、野外施設
五四年度中に、施設一六棟、

として薬草園、野球場、サッカ
ーコート、テニスコートなどが
次々に建設されます。

五四年度中に、施設一六棟、

自然を生かした学園に

キャンパス内は高低差二〇メートルもある丘陵地ですが、地形や樹木をできるだけ残し、自然を生かした学園が誕生します。

現在、学園の取付け道路の完成も間近く、道路、上下水道、エネルギー施設の整備も、計画通り明年三月中に終える予定です。

*

県民挙げて取り組んできた待望の医科薬科大学が誕生し、無医大県から脱脚しました。しかし、医療に関しては、県内外を問わず救急医療体制の確立、老人医療対策、へき地医療対策、看護婦等医療従事者の確保など多くの重要な課題が残されています。

県では、本大学の開学実現を機に、こうした医療対策を一段と強化改善し、県民の健康管理に寄与する医療行政を目ざしています。